

認知障害に関する包括的検討委員会 (第24期・第4回)

平成31年9月24日(火) 10時00分～12時00分

日本学術会議 5-C 会議室 (1)

出席者：井伊雅子、磯部光章、石川冬木、遠藤玉夫、小松浩子、武田洋幸、
丹下健、寶金清博、山脇成人、萩田紀博、白澤政和、積山薫

議事録

- ・ 寶金委員長から、前回の議事要旨確認があった。(資料1)
- ・ 学術フォーラム期間案に関して説明があり、議論を行った。
(資料2、参考資料2～4)
- ・ 学術フォーラムのプログラム「共生と予防」に関して、その後、以下のような今後の方針、問題提起および討論が展開された。
 - 1) フォーラムの参加者は誰を対象とするのか。市民公開講座というよりは、1部から3部までいろいろなバックグラウンドの人が話をする。
学際的(分野横断的)な視点から。国民の立場も考慮するために、一般市民を代表する当事者団体などに参加してもらう。
プレスリリースをして、フォーラムの結果を発信してもらう
 - 2) 予防に関しては、学術的にわからないことも多い。
 - 3) MCIの専門家はいない、
患者団体を入れる
連携会員以外の参加者、予算をどうするか。
ユマニチュード(京都大学 こころの未来研究センター 吉川左紀子先生、東京医療センター 本田美奈子先生)

(ユマニチュードのように特別な才能を持っている人たちだけでなく) クレストで誰もがができる技術診断の開発 (京都大学 情報学研究科中沢先生)

診断することのネガティブインパクトもある。社会で取り組むという視点が重要

脳科学などからの問題点を指摘

認知とは何か、深い問題をはらんでいる 人間の知の問題を語る
政策にもつなげる。

MCIとは何か? 画像で見てもわからない。バイオロジーの視点から

岩坪 威(東大)の最先端の研究

病態の研究よりも「共生と予防」という視点から

京都府立医大 精神科医 成木迅(なるもとじん)

250名定員

事前登録をする

分野横断的 国民の立場も加味して

4) 他の学会との協賛

5) 日程案(参考資料1)

- ・ 今後の予定 (資料3)

学術フォーラム終了後、提言の執筆

- ・ 日本学術の展望 (資料4)

石川先生から概要の説明